

教科名	年間授業時数	学年
保健体育	保健 20 時間 体育 97 時間 計 117 時間	3
授業形態	指導者名	
2クラス合同・3学年合同（縦割り授業）	鈴木 浩司・森 逸美	

教科書(発行所)	最新 中学校保健体育(株式会社 大修館書店)
教科書以外の教材(発行所)	中学体育実技(株式会社 学研教育みらい)

<p>目 標</p> <p>学習のねらい</p>	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p> <p>《体育分野》</p> <p>1 体づくり運動 自己の体力や生活に応じて、どのような運動をすればいいかを工夫する。 ①自己の体に気付く ②自己の体の調子を整える ③仲間と交流する</p> <p>2 器械運動 自己の能力に応じて、各運動種目の「技がよりよくできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技に挑み、その課題を解決していくことで喜びを味わう。</p> <p>3 陸上競技 速く走る・遠くへ跳ぶ・高く跳ぶ・遠くへ投げることをねらいとし、自己記録の向上の喜びや仲間と競争する楽しさを味わう。</p> <p>4 球技 集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、攻防の作戦を立てて、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。</p> <p>5 武道 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。</p> <p>6 ダンス 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんな楽しく踊ったりすることができるようにする。</p> <p>7 体育に関する知識 各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。また、運動の心身にわたる効果について理解する。</p> <p>《保健分野》</p> <p>1 文化としてのスポーツ (1)文化としてのスポーツの意義について理解すること。 (ア)スポーツは、文化的な生活を営みよりよく生きていくために重要であること。 (イ)オリンピックやパラリンピック及び国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること。 (ウ)スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けて</p>
--	--

いること。

(2) 文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。

(3) 文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組むこと。

2 感染症の予防と健康を守る社会の取り組み

(1) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。

(ア) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。

(イ) 健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また、医薬品は、正しく使用すること。

3 環境の健康への影響

(1) 健康と環境について理解を深めること。

(ア) 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

(イ) 飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。

(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。

(2) 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

定期考査	出題方針	・教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	体づくり運動・陸上競技・球技・保健など
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
年度末考査		陸上競技・球技・ダンス・保健 など	
評価の観点 ・評価の方法	・評価の観点は、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度、の3項目とする。 《体育分野》 ・評価の方法は、自己評価・相互評価・提出されたレポートの内容・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に観点別に評価する。 ・毎時間が評価の対象であり、数回の技能テストも行う。 《保健分野》 ・評価の方法は、定期考査、ノート提出、提出されたレポートの内容、出席状況等により、総合的に観点別に評価する。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	《体育分野》 ・更衣を早くし、授業には遅刻しない。 ・体調の自己管理をし、体調の悪いときには担当教師に申し出る。 ・忘れ物をしない。 《保健分野》 ・提出物は必ず出す レポート・ノート等の記述内容の評価は大きいので、しっかり考察して提出しましょう。 ・忘れ物をしない。		

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	・体づくり運動(体ほぐしの運動)	6	・自己の体に気付き、仲間と交流する。
	5	・体づくり運動(体力を高める運動)	6	・互いに協力しながら、体力を高める。
	6	・陸上競技(短距離走・リレー)	10	・安全に留意し、基本技術を習得する。 ・互いに協力しながら、手際良く測定できるようにする。 ・運動について理解を深める。
		・文化としてのスポーツ ・球技(バレーボール)	4 8	・生活の中での生かし方を理解する。 ・安全に留意し、互いに協力しながら、練習やゲームを行う。
	7	選択種目 ・武道(剣道)、球技(テニス・卓球)	6	・安全に留意し、互いに協力しながら、練習やゲームを行う。
		・感染症の予防と健康を守る社会の取り組み 《第2回考査》	6	・生活の中での生かし方を理解する。
	8 9	・ダンス(フォークダンス)	8	・互いに協力しながら練習を行う。 上級生と下級生の交流を深める。
		・球技(バドミントン)	8	・安全に留意し、互いに協力しながら、練習やゲームを行う。
	後期	10	選択種目 ・武道(剣道)、球技(テニス・卓球)	15
11		・球技(バスケットボール)	10	・安全に留意し、互いに協力しながら、練習やゲームを行う。
		・環境の健康への影響	10	・生活の中での生かし方を理解する。
12 1		・陸上競技(長距離走)	10	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを大きな目標とする。
2 3		選択種目 ・陸上競技(ハードル・走り幅跳び など) ・器械運動(マット運動・跳び箱運動) ・ダンス(現代的なリズムのダンス) 《年度末考査》	10	・生涯スポーツに向けて、自ら進んで体を動かすようにする。 ・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。
	総時間数		117	体育 98時間 保健 19時間

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科（技術分野）	20	3
授業形態	指導者名	
一斉授業	木挽屋 菜摘	

教科書（発行所）	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（開隆堂）

目標	実践的・体験的な学習活動を通してエネルギー変換及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。		
学習のねらい	<p>C エネルギー変換の技術</p> <p>(1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 電気、運動、熱の特性等の原理・法則と、エネルギーの変換や伝達等に関わる基礎的な技術の仕組み及び保守点検の必要性について理解すること。</p> <p>イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。</p> <p>(2) 生活や社会における問題を、エネルギー変換の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができること。</p> <p>イ 問題を見いだして課題を設定し、電気回路又は力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。</p> <p>(3) これからの社会の発展とエネルギー変換の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。</p> <p>イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、技術・家庭総合ノート、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	実施しない
		第2回考査	エネルギー変換の技術 ・エネルギーの変換と利用・機器のしくみと保守点検
		第3回考査	実施しない
		第4回考査	実施しない
年度末考査	情報の技術 ・身の回りにおけるコンピュータ制御・プログラムの作成 エネルギー変換の技術 ・エネルギーの変換と利用		
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3項目である。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、授業中での作品、技術・家庭ノート、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータの活用に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、ものづくりや情報に関する学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかされる技術的素養を身に付ける学習です。</p> <p>技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身に付けることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかされる技術的素養を身に付けましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	○エネルギー変換の技術 ●エネルギー資源の利用 ・エネルギーとエネルギー変換 ・燃料を利用した技術	3	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな機器を通してエネルギーとエネルギー変換を理解する。 ・エネルギー資源の種類、利用方法を理解する。 ・エネルギーを有効に活用するためには、エネルギー変換効率を高める必要があることを知る。
	5	・発電と送電のしくみ ・エネルギー変換と効率		
	6	●電気の利用 ・電気エネルギーの特徴	3	
	7	●機器の安全な利用と保守点検 ・電気機器の構造 ・電気機器の安全な利用 ・電気機器の保守点検 《第2回考査》	2	
	9	●エネルギー変換を利用した問題解決	5	
後期	10			<ul style="list-style-type: none"> ・はんだごてを用いて、安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができる。
	11			
	12	●運動エネルギーの伝達 ・力の伝達 ・動きを変化させるしくみ	5	
	1	・力や運動を保存するしくみ 《年度末考査》		
	2	●これからのエネルギー変換の技術	2	
総時間数			20	

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科（家庭分野）	19	3
授業形態	指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業	小山有紀	

教科書（発行所）	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野（開隆堂）

目 標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする 実践的な態度を養う。</p>				
学習のねらい	<p>A 家族・家庭生活</p> <p>(2) 幼児の生活と家族</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。</p> <p>(イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。</p> <p>イ 幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。</p> <p>(イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。</p> <p>イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。</p> <p>C 消費生活</p> <p>(1) 金銭の管理と購入</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。</p> <p>(イ) 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。</p> <p>イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。</p> <p>(2) 消費者の権利と責任</p> <p>ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。</p> <p>イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。</p>				
定期考査 評価の観点・ 評価の方法 目 標	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリント、ワークシートからも出題。			
	範囲 (予定)	<table border="1"> <tr> <td>第2回考査</td> <td>・金銭の管理と購入 ・消費者の権利と責任</td> </tr> <tr> <td>年度末考査</td> <td>・幼児の生活と家族 ・家族・家庭や地域との関わり</td> </tr> </table>	第2回考査	・金銭の管理と購入 ・消費者の権利と責任	年度末考査
第2回考査	・金銭の管理と購入 ・消費者の権利と責任				
年度末考査	・幼児の生活と家族 ・家族・家庭や地域との関わり				
学習の ねらい	<p>・評価の観点は家庭科の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3点とする。</p> <p>・授業への取り組み方、発表・プレゼン・レポート、ワークシートの記述等から総合的に評価する。</p>				
定期考査	<p>・忘れ物をしない。・時間を守る。 ・人の話を集中して聞く。</p> <p>・課題をきちんと行い提出する。 ・学習内容を家庭で実践する。</p> <p>・自らの家庭生活を見つめ、家庭生活に対する課題や考えをもつ。</p>				

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	○家庭生活と消費 ①消費生活のしくみ	1	・物資とサービスの特徴がわかる。 ・消費生活のしくみがわかる。	
	5	②家庭生活における収入と支出	1	・収支のバランスをはかり、計画的に金銭管理する必要があることがわかる。	
		○購入・支払いと生活 ①いろいろな購入方法	1	・店舗販売と無店舗販売の特徴がわかる。	
	6	②購入前に知っておくこと	1	・売買契約について問題発生の原因や予防方法を含め、理解する。	
	7	③いろいろな支払い方法	1	・即時払い、前払い、後払いの特徴を理解し、利点と問題点を理解する。	
		④情報を活用した上手な購入	1	・生活情報の収集や活用のしかたを理解し、目的に合った商品を選ぶことができる。	
		○消費者被害と消費者の自立 ①なくならない消費者被害	1	・消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。	
		②消費者を支えるもの	0.5	・消費者を支えるしくみについて理解できる。	
		③消費者の権利と責任	0.5	・消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者をめざす。	
	<第2回考査>				
前期	8	○幼児の生活と家族			
	9	①幼児のころと今の自分 ②幼児の体の発達	1	・幼児期への関心をもつ。 ・幼児の身体の発育について、発達の方向性や順序性ととともに、個人差があることを理解する。	
		③幼児の心の発達	1	・幼児の言語・認知・情緒・社会性等の発達について理解する。	
		④発達にとってのおとなの役割	1	・子どもが育つ環境としての家族や周囲のおとなの役割について理解する。	
後期	10	⑤遊びが必要なわけ	1	・自分の実践的・体験的な活動を通して、幼児にとっての遊びの意義を理解する。	
		⑥遊びを支える環境	2	・幼児にとって遊びは生活そのものであり、十分な遊びを経験できる環境が重要であることを理解する。	
		○家庭生活と地域のかかわり ①家庭生活と地域での活動	1	・家庭生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。	
		②多様な人びとが暮らす地域	1	・地域で多様な人びとが暮らせるための工夫を理解する。	
	<年度末考査>				
		③地域に暮らす高齢者	1	・地域で活動する高齢者や、見守りが必要な高齢者などさまざまな高齢者がいることを理解する。	
		④高齢者とのかかわり	1	・地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者とのかかわりを考える。	
	総時間数			19	

教科名		年間授業時数	学年
英語 (英語・英語C)		195	3
授業形態		指導者名	
習熟度別による少人数授業および一斉授業		高木由貴 毛利さやか Kevin Glenn Priefer Probstle Andrew Michael	

教科書 (発行所)	NEW HORIZON English Course 3 (東京書籍)		
教科書以外の教材(発行所)	LISTENING TRIAL 15 (文英堂) NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE2 (Z会出版) NEW TREASURE 文法問題集2 (Z会出版) 実力練成テキスト3 (文理) チャンクで英単語 Standard (三省堂)		
目標	外国語(英語)によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やりとり)(発表)」、「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の4技能5領域(「聞くこと」「話すこと(やりとり)(発表)」「読むこと」「書くこと」)をバランスよく学習する。 ・250語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 ・質問・応答・紹介・交渉・説明・論理的な自己表現などができる。 ・200語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 ・基本的な文法・語いを使って、300語程度のまとまった英語を書くことができる。 		
定期考査	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASUREの内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材問題集、教材プリントなどから出題する。 Listening Comprehensionは必ず行う方針である。	
	範囲 (予定)	第2回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE2 Lesson7~8 検定教科書内容
		第3回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE2 Lesson9~10 検定教科書内容
		第4回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE2 Lesson 11 検定教科書内容
年度末考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE2 Lesson 12 検定教科書内容		
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、表現の能力、主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査を中心に、ファイル、単元テスト、その他の提出物を含む課題、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>中学3年生では、習熟度別(希望による)少人数授業を展開します。標準コースではこれまでの学習と同様に、基礎・基本の定着を目指した演習や言語活動などを通して学習を進めていきます。発展コースではより細かな文法指導やその文法を駆使したより発展的な言語活動などを通して、言語使用場面に合わせて学習したことを実践的なものにまで高めていきます。</p> <p>どちらのコースにも共通して大切なことは、①予習②授業③復習のサイクルを確立することです。家庭学習は高校進学を視野に入れ、1時間以上を目標に取り組みましょう。まず、①予習では、単語調べ、文法問題集(Basic)をできる範囲でやってみましょう。予習の段階で疑問に思ったことは授業で確認し、それでも不明な点は授業後に先生に確認しましょう。②授業では、言語活動中は音を大切にしっかりと発音することです。五感をフル活用しましょう。また、積極的な挙手を期待します。一方、書く練習やまとめの作業では静かに書くことで整理します。活動の1つ1つにねらいをもち、けじめをつけて学習しましょう。さらに、ペアなどによる学び合いの姿勢も大切に、お互いに高め合っていきましょう。その日学習したことは必ず③復習します。文法問題集(Standard)をしたり、実練をしたり、教科書を音読したり、文法事項を自分でまとめたりするなどの努力を欠かさずしましょう。<u>この毎日の積み重ねが定着につながります。</u>週5時間の授業と毎日の家庭学習(1時間以上)をフル活用して、実践的な英語力を身につけていきましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容			時数	
前期	4	Unit 0 Three Interesting Facts about Languages Unit 1 Sports for Everyone	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年の振り返り 現在完了 継続 	2年時の復習 Stage2 Lesson 7 <i>Food Waste in Japan</i>	<ul style="list-style-type: none"> 現在完了形(完了・結果 経験・継続) 現在完了進行形 	22
	5	Unit 2 Haiku in English				22
	6	Unit 3 Animals on the Red List	<ul style="list-style-type: none"> 現在完了 経験 完了 不定詞 副詞的用法(原因) 	Lesson 8 Skating for Peace	<ul style="list-style-type: none"> 名詞 不定代名詞 再帰代名詞 	5
		Stage Activity 1 My Activity Report	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験を振り返って 活動報告を発表する 			22
			《 第2回考査 》	《 第2回考査 》		
	7	Let's Read 1 A Mother's Lullaby	<ul style="list-style-type: none"> 場面の変化や登場人物の心情を読みとる 	復習		4
	8	Unit 4 Be Prepared and Work Together	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞+不定詞 It is ~(for...)to 不定詞 want...to~ 道案内 how to ~ 	Lesson 9 Thank You, Kaka Murad	<ul style="list-style-type: none"> 前置修飾と後置修飾 分詞の形容詞用法 	22
		9	Daily Scene 4			
	後期	10	Unit 5 A Legacy for Peace	<ul style="list-style-type: none"> 分詞の後置修飾, 間接疑問文 	Further Reading ① Can Magnets Help the Growth of Soybean Seeds?	
11		Stage Activity 2 Discover Japan	<ul style="list-style-type: none"> 日本や郷土の文化などを紹介する文 詳しい情報を加えながら書く 	Lesson 10 A Jackal Met a Man for the First Time	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞(主格・目的格) 	22
				《 第3回考査 》	《 第3回考査 》	
12		Unit 6 Beyond Borders	<ul style="list-style-type: none"> 仮定法(仮定法過去) I wish~ 	Lesson 11 AI and Man Working Together	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞の発展的用法 It ~ (for-)to... 疑問詞+to too ~ to.../ enough to~ 原形不定詞 	22
1						
			《 第4回考査 》	《 第4回考査 》		
			[冬季休業中]			
2		Stage Activity 3 Let's Have a Mini Debate	<ul style="list-style-type: none"> 主張とその理由を明確にしなから述べたりすることができる 速読(スピーチ原稿を読む) 	Lesson 12 A War Storyteller from the Himeyuri Student Corps	<ul style="list-style-type: none"> 間接疑問、付加疑問 感嘆文 仮定法過去 	22
		Let's Read 3 A Graduation Gift from Steve Jobs		Further Reading ② A Woman Who Changed People's Old Ideas		
3			《 年度末考査 》	《 年度末考査 》		
			3年間の総まとめ		5	
		《 スプリングチャレンジ 》				
		総時間数			190	

第3学年 道徳年間指導計画

<p>学校の教育目標 科学的思考力と創造力を身に付け、21世紀の社会を各分野で主体的に担っていくことができる生徒の育成 幅広い知識と国際的な感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成 豊かな人間性をもち、自分を律し他を尊重しながら個性を伸長する意欲ある生徒の育成</p>	<p>教科書 検定教科書「自分をのびす」</p>
<p>学年の重点項目 広い視野をもち、何事にも最善を尽くし理想の実現を目指して自己の人生を切り開く意欲と態度を育てる。</p>	

月	主題名	内容項目	資料名	ねらい
4	オリエンテーション	-	オリエンテーション	生徒が主体的に楽しく道徳学習に取り組みよう、意欲を引き出す。
	責任ある判断	A-(1)	リクエスト	自分たちの考えや行動が他者や社会に与える影響を正しく理解することを通して、自らの判断と責任の大切さに気づき、主体的によく考え判断し、行動の責任をもつ道徳的意欲を養う。
	家族の深い愛情	C-(14)	スダチの苗木	両親の苦勞を知って心を震わせる筆者の心情を共感的に理解することを通して、自分を育ててくれた家族の愛情の深さに気づき、家族を敬愛して、家族の一員としてよりよい家庭生活を築こうとする道徳的意欲を養う。
5	寛容で謙虚な心	B-(9)	山寺のつむぎの実	さえと竹庵の話を聞いて、深々と頭を下げる甚太の心の変化について考えることを通して、寛容で謙虚な心のよさや大切さに気づき、相手の個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方を受け入れていく道徳的意欲を養う。
	自制する心	A-(2)	独りを懐く	一人暮らしを始めた筆者がぶつかった「どきんとすること」を手がかりに、「独りを懐く」ことの意義を考えることを通して、節制に心掛けて、心身の健康や安全で調和のある生活を築いていこうとする道徳的意欲を養う。
	生命の尊さ	D-(19)	誰かのために	残りわずかが期間を燃やすために必死に生きようとする母の姿から、「誰かのために生きる」ことについて考えることを通して、生命の尊さを有限性や関係性など多面的・多角的に理解し、かけがえのない生命を尊重する道徳的意欲を養う。
	希望をもって生きる	A-(4)	優しいうそ	交通事故による苦難を乗り越え、「語り部女優」として復帰を決めた筆者の生き方について考えることを通して、勇気と希望をもって生きることの大切さに気づき、より高い目標に向かって、困難や失敗を乗り越えていこうとする道徳的意欲を養う。
6	役割と責任の自覚	C-(15)	監督がくれたメダル	監督やとのやり取りを通じて、嫌だったノックを丁寧に行うようになった筆者の心の変化について考えることを通して、自己の所属する集団の意義や自らの役割を理解し、責任を自覚して集団生活の充実に努める道徳的意欲を養う。
	いじめを許さない心	C-(11)	卒業文集最後の二行	73さんへのいじめを悔い、筆者の心情について考えることを通して、いじめを止め、いじめを繰り返さない心で生きていく道徳的意欲を養う。
	人と人のつながり	B-(6)	原稿用紙	お世話になっていた書店の事務から電話を受け、話を聞いた筆者の心情について考えることを通して、互いに支え合う関係性のよさに気づき、思いやりの心と感謝の念による人と人のつながりを大切にすることを道徳的意欲を養う。
	自然との共生	D-(20)	襟巻のこと	襟巻の人々による自然との共生の取り組みを知った「私」の思いについて考えることを通して、自然の尊厳や自然環境を大切にすることを道徳的意欲を養う。
7	自己の向上を図る	A-(3)	ぶれない心-松井秀喜-	自分で考え、工夫しながら努力を積み重ねてきた松井秀喜さんの生き方について考えることを通して、自己を見つめ、自己の向上を図っていく道徳的意欲を養う。
	生きる希望と喜び	D-(22)	ひまわり	美しい景色を目にしたことをきっかけに、絶望を乗り越え、誇りをもって生きようとする筆者の生き方の変化について考えることを通して、自らの弱さや悔しさと戦い、自己を奮い立たせて、生きる希望や喜びを見出す道徳的意欲を養う。
	心から信頼できる友達	B-(8)	ライバル	友情をめぐる良心の責に苦しみながらも、それを乗り越えていこうとする啓介と康夫の心情を共感的に理解することを通して、心から信頼できる友達のよさや大切さに気づき、友達と互いに励まし合い、高め合う関係を築いていこうとする道徳的意欲を養う。
9	自己の行為の責任	A-(1)	ピヨ子	加藤君が笑った瞬間が事故の原因となったことについて考えることを通して、自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつ道徳的意欲を養う。
	礼儀の美しさ	B-(7)	席を譲られて	高橋健二氏の礼儀の美しさと、それを自覚した筆者の礼儀について考えることを通して、相手の人格を認め、尊敬や感謝の念を伝える礼儀のよさや大切さに気づき、時と場合に応じて適切な行動をとろうとする道徳的意欲を養う。
	勤労の尊さや意義	C-(13)	てんびんばかり	叩きつけられるものがあるという文の背景を調べて筆者が気づいたことについて考えることを通して、勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通じて社会に貢献しようとする道徳的意欲を養う。
	善意や支えへの感謝	B-(6)	読り物資料 帰郷	人々の善意や支えに伝えようとする意欲を養う。
10	信頼と敬愛の念	B-(8)	アイツの道徳選択	道徳選択をめぐる真一と夏樹の思いを共感的に理解し、よりよい関係を築いていくことについて考えることを通して、異性間においても信頼と敬愛の念に基づき、互いを向上させていける人間関係を築いていく道徳的意欲を養う。
	思いやりの心	B-(6)	月明かりで見送った夜汽車	T先生の気持ちを察して電気を消すY先生と、それに対して声をあげ拍手を送る先生たちの思いについて考えることを通して、相手の重荷にならない思いやりのよさや大切さに気づき、深い理解と共感に基づき思いやりの心を大切にする道徳的意欲を養う。
	支え合う家族の絆	C-(14)	母と子のロードレース	アスリートとしてのリスクを省みず、母への生活サポートを行いつつも、ロードレースに挑戦し続けた宮澤史さんの思いについて考えることを通して、家族からの支えや無私の愛情に気づき、家族の一員としての自覚をもって、互いに支え合う家庭生活を築いていく道徳的意欲を養う。
	生命倫理をめぐる葛藤	D-(19)	ドナー	二つの救済の道徳的葛藤に対する感じ方から、生命倫理について考えることを通して、生命の尊さを多面的・多角的に理解し、自己の生命の尊厳を守る道徳的意欲を養う。
11	法やまじりの意義	C-(10)	元さんと二通の手紙	二通の手紙を受け取った元さんが「この年になって初めて考えさせられること」について考えることを通して、法やまじりの意義を理解し、それらを進んで守り、規律ある安定した社会の実現に努める道徳的意欲を養う。
	差別偏見のない社会の実現	C-(11)	虹の国-ネルソン・マンデラ-	ネルソン・マンデラが目指した社会の在り方について考えることを通して、無知から生まれる偏見や不寛容な心など人間の弱さや悔しさに気づき、正義と公正さを重んじ、差別や偏見のない社会の実現に努める道徳的意欲を養う。
	理想を追い求める	A-(4)	風に立つライオン	「風に向かって立つライオンでありたい」と願う「僕」の生き方について考えることを通して、人生の理想を追い求めることの大切さや勇気らしさに気づき、強い意志と希望をもって人生を切り拓いていく道徳的意欲を養う。
	よりよく生きる喜び	D-(22)	二人の弟子	純白の百合を見て涙を流す智行の思いについて考えることを通して、自己の弱さや悔しさを乗り越えようとする人間の強さや気高さや人間としてよりよく生きる喜びを見出し、いこうとする道徳的意欲を養う。
12	感動、畏敬の念	D-(21)	ほつちやれ	ほつちやれのすばしけさに対する、筆者がほつちやれを自覚した時の思いを共感的に理解することを通して、お互いの自然の神聖な生命の尊厳を敬愛する道徳的意欲を養う。
	道徳的自覚に支えられた生き方	A-(1)	カントとルソー	カントがルソーの「エミール」から学んだことについて考えることを通して、人間が本来持つ良心の尊さに気づき、自らの精神を重んじる道徳的意欲を養う。
	心の通い合い	B-(6)	ある元目のこと	挨拶顔に深々と頭を下げる少年を自覚した筆者の感動を共感的に理解することを通して、人と人との心の通い合いのよさに気づき、人は互いに支え合って生きていることを自覚し、思いやりと感謝の心をもって他者に接していこうとする道徳的意欲を養う。
1	国と国との友好の絆	C-(18)	海と空-視野の人々-	エルトゥールル号の話を聞いた「私」の思いについて考えることを通して、国際的な相互扶助のよさや大切さに気づき、世界の平和と人類の発展のため、他国の人々と支え合い、助け合おうとする道徳的意欲を養う。
	公德心	C-(10)	ペーパークラフト論争	ペーパークラフトの制作について考えることを通して、社会生活における公德心の大切さに気づき、道徳的責任とそれを支える公德心を大切にして、開明な安定した社会の実現に努める道徳的意欲を養う。
	伝統文化を守り受け継ぐ	C-(17)	運木の木-姫路城の大柱-	姫路城の柱に込められた人々の思いを共感的に理解することを通して、先人の残した文化の大切さに気づき、我が国の歴史と文化の継承と文化の発展に貢献しようとする道徳的意欲を養う。
2	社会のつながり	C-(12)	読り物資料 鳩が飛び立つ日	まわりの人々やつながりをもち住みよい社会を目指す姿勢を養う。
	生命尊重の念	D-(19)	高砂丸とポトマック川のこと	高砂丸の沈没をめぐって起きたアランドとクヌッセンの衝突をめぐって人々の思いについて考えることを通して、生命の尊さを理解し、自他がかけがえのない生命を尊重する道徳的意欲を養う。
	郷土の発展に寄与する	C-(16)	先年先のふるさとへ	「うちの町」に込められた村小の生徒たちの郷土に対する思いについて考えることを通して、郷土を愛し、主体的にその発展に努めようとする道徳的意欲を養う。
3	社会参画	C-(12)	招集通知-あなたが裁判員になるとき-	みんなの話を聞いて裁判員制度について考えた感想が気づいたことについて考えることを通して、主体的に社会に関わることの大切さに気づき、社会参画の意義と社会参画の自覚を深め、公共の事情をもってよりよい社会の実現に努める道徳的意欲を養う。
	真理を探究する態度	A-(5)	ショーペンハウアーとニーチェ	ショーペンハウアーとニーチェのエッセイを参考に、「自分で考えること」の大切さについて考えることを通して、主体的に真理を探究し、疑問を解決していこうとする道徳的意欲を養う。
	人間としての誇りに満ちた生き方	D-(22)	二度とない人生だから	「二度とない人生だから」の語に込められた思いを感じ、自己の生き方を見つめ直すことを通して、気高く生きることを通して、よりよい人生を切り拓いていく道徳的意欲を養う。
				1年間のふり振り返り

教 科 名		年間授業時数	学 年
サイエンス（課題研究）		39	3
授 業 形 態	指 導 者 名		
一斉授業	奥野晃司 木挽屋菜摘 小山有紀 武下晃慎	高木由貴 皿海和義 鈴木浩司	森 逸美 郷野拓海 Andrew 中川一樹 平井敬貴 松末昌樹

目 標	<p>科学が社会生活において果たしている役割を理解させ、自然に対する関心を高め目的意識をもって実験・観察・数学的活動を行うことにより、科学的に調べる能力と態度を育てる。さらに、実験・観察等から生じた疑問を学んだ知識やそれらを組み合わせることにより解決させるなど課題解決的な学習を取り入れることにより、自然の事象や現象についての理解を深め、科学的思考力や想像力を養う。</p>
学習のねらい	<ol style="list-style-type: none"> ①課題研究において探求内容を社会科学、人文科学、自然科学に分類し、文献の調査の方法を身につける。 ②文献調査をヒントに探求課題を設定し、課題意識を持たせるとともに、様々な解決方法を考えさせることによって論理的な思考力を身につける。 ③論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって、認知能力の促進・加速を図る。 ④研究発表会、論文記録集を作成し、3年間のサイエンス・グローバル・AMAKI学・教科の学習の集大成とする。
評価の観点	<ol style="list-style-type: none"> ①課題解決のために様々な解決方法を考えようとする態度が身についている。 ②課題を解決するために実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりすることができる。 ③形式的思考操作ができる。 ④他者の意見を参考にして論理的な思考や判断をし、自分の考えを論述することができる。 ⑤自分の意見を適切にまとめ、効果的な発表ができる。
先生からアドバイス (授業の受け方、ノート の取り方など)	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し、自ら学び、自ら表現する力を身に付けましょう。 ・課題探求の過程では、答えが一つには決まらない課題も出てきます。柔軟な発想や調査活動を通して様々な可能性をしっかりと考えましょう。 ・仲間や先生との議論を通して、批判的、複眼的、分析的に考え、自分の考えを論文で発表しましょう。 ・グローバルで学習している言語技術の手法とサイエンス学習した科学分析方法を利用して、自分が研究したい内容（各教科で得た知識）について意見が言えたり、文章が書けたりするようになりましょう。

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	<ul style="list-style-type: none"> 方針説明 ゼミ開講・ゼミ内の計画方針 テーマ・リサーチクエスト探し テーマ・リサーチクエストの決定 	4	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ内の年間計画を立て、組織的、効率的に活動できる環境を設定する。 担当教師としっかりとディスカッションをする。
	5	<ul style="list-style-type: none"> テーマ・リサーチクエスト検討会 文献調査など各自の活動 探求課題の解決のために研究計画を立てる。 探求課題の解決のために調査やヒアリングを行う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 文献調査から導かれた新たな課題について個人で探求活動をすすめる。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 調査やヒアリングを行う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 指導担当者がアドバイザーとなり、探求方法などについて計画を立てる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> 研究中間報告 	3	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング調査、質問調査、インタビュー調査や実験など体験を通して課題を解決していく。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 調査、研究 		<ul style="list-style-type: none"> 文献やインターネットを使って情報を収集することができる。
	9	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果をまとめる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報を人にどのように伝えるかその内容のまとめ方を習得する。
	10	<ul style="list-style-type: none"> 論文作成の準備をする。 	5	<ul style="list-style-type: none"> Thinking Science、グローバルの授業で学習した科学的分析方法や、パラグラフィティングの手法を用いて調査探求をした内容について論文を作成する。
	11	<ul style="list-style-type: none"> 粗原稿提出 	4	
	12	<ul style="list-style-type: none"> 論文修正 	3	
後期	1	<ul style="list-style-type: none"> 研究論文集の作成 ポスターの作成 	4	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの技能を身に付ける。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 発表準備 課題研究発表会 	4	<ul style="list-style-type: none"> 研究の成果をまとめる 1年間の研究成果を発表する。
		<p>総時間数</p>	39	